



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

卒業・進級を祝う会 2024

▼ 3月27日、卒業・進級を祝う会が開かれました。先日、居場所利用者さんから「綿あめ」が作れる機械を寄付していただいたので、せっかくだからみんなで作ってみることに。キャンディを砕いて細かくして投入口に入れると見事に大成功！これは今後もなんにわの看板メニューになりそうな予感がします！

それから、皆が自分の目標について言えたこと、とても素敵でした。「こうしたい」が決まっている子も、「考え中」の子も、「特にないよ」の子も、自分の思いを伝えることができるって、すごいなと感心しました。目標があることが大事なのではなくて、自分の気持ちを誰かに伝えられる、それがとっても素敵だなと思いました。(丸本)

▼ 普段居場所に居ないため関わりが少ない方や久しぶりにお話しができ方とも交流ができ、楽しい時間が過ごせました。(西尾)

▼ 綿あめやパフェ作りは子どもも大人も楽しんでいました。ゲームで遊んだり、ギター演奏をしたりと、参加者がそれぞれ好きな過ごし方ができていたことが良かったと思いました。(福田)

▼ 今年は大人、子ども、スタッフを含めて15名くらいの会になりました。おやつは事前にお菓子類を子ど



居場所入り口の花 もうすぐ咲き始めます(写真は昨年)



もたちとスタッフで袋づめにしたり、マスキングテープで袋の飾りつけもしました。とても楽しい会になったと思います。(白井)

▼ さっきまで「綿あめ工場」になっていた居場所入り口のテーブル(残念、写真撮影忘れてしまった!)。いつの間にかお菓子、ジュースや折り紙や楽譜がならび、折り紙の話をしたり、ギターを弾いたり歌ったり、こちらもそれぞれ楽しんでいました。(手塚)

「子どもの居場所」が今市郵便局向かいに移動してから、この4月で4年目を迎えました。「クリスマス会」や「進学・進級を祝う会」など、居場所を活用したイベントを再開しています。昨年末より1月にかけて、新型コロナウイルスとインフルエンザの流行がありました。これらをまとめて「急性呼吸器感染症(ARI)」と呼ぶことになったそうですが、4月になってそのARIは収束傾向。ほっとしています。体調が思わしくないときは休む、手洗いの励行、場合によってはマスクの使用、そして換気に注意、などの感染症対策を続け、「つくって食べよう」などもまた始めていきたいと思います。今年度も「なんとなくのにお」への変わらぬご支援を、よろしくお願いいたします。

目次

卒業・進級を祝う会 2024	1
映画「ぼくたちの哲学教室」	2
ぼんやりかんがえていたこと	2
居場所でバードウォッチング	3
活動報告	3
こんな本はいかが・69	4

居場所のひとこま

ビジネスPC (Windows10)をゲーム用として使っていたのですが、1年ほど前から、画面が固まり操作ができなくなる(フリーズというらしい)ことが増えました。調べてみたら「画像処理用の記憶領域不足」という現象らしく、設定では解決できません。そこで探したPCが右写真。少し前のオンラインゲーム用。新品の半分以下の値段で購入しました。快適に動いています。



ここ1年、ぼんやりかんがえていたふたつのこと

不登校になり家で過ごす子どもたちへ、のんびりと自由に過ごせる場所「なんとなくのこにわ」を始めたのは2004年でした。それから12年過ぎた2016年、国会では『教育機会確保法』が成立しました。「不登校は問題行動ではない」、「いじめなどで学校に行くのがつらいときは休んでもよい」との附帯決議が付けられたこの法律は、「なんにわ」にとっても、不登校の子に「何かをしてあげる」という発想から、「学びの権利を保障する」という理念への転換を促す力となりました。同じころ、誰が思いついたのか「不登校＝特異な才能のある子」という図式が流行りました。「不登校の子に英才教育を施すことで科学技術の革新を促す人材を」とうたった「東京大学発・異才発掘プロジェクト」はマスコミにも取り上げられました。その後「勘違い」だったと総括され、自然体験活動などの新たな方向を模索しているようです。「不登校」への対応に「イノベーション」を持ち出すのは間違い。やはり当事者の「人権」を原点に置こうと強く考えた時期でもありました。

『確保法』の基本理念は「すべての人の教育を受ける権利を保障する」という憲法第26条にあります。それは1994年に日本が批准した「子どもの権利条約」の精神でもあります。そのことが不登校の子の「学ぶ権利」を守り、「教育の公正」、「排除から包摂へ」につながる大切な一歩ではないかと思えます。では、もう少し突き詰めて考えていくと、「人権」や「学ぶ権利」はいかなる原理によって支えられているのだろうか。さらに深い「何か」があるのだろうかといつから気になっていたのです。この「何か」は、ずっとぼんやりと、気になったまま頭の中で漂っています。

半年ほど前のある新聞記事に出会いました。「すべての人が知性や感性において平等だと宣言することから議論を始めよう」と考える80歳半ばのフランスの哲学者ジャック・ランシエールの紹介記事です。ランシエールは「考え方の基本に、人間の能力は平等だと考える意識」を置き、美学や芸術、民主主義など政治についても論じている思想家だそうです。ぼんやりした「何か」が共鳴したのはランシエールの「労働者も詩人も(おそらく、どんな職業の人も職業のない人も)、美的・知的能力において平等である」という宣言でした。「知的能力に序列はない」という合意を受け入れた思想から何が生まれるのか。ランシエールの書いた『無知な教師』(法政大出版)という本を購入。読んでいくうち、これは難解な哲学書と気づき、3割ほどのところでお正月過ぎから積読(つんどく)状態になってしまいました。けれど、「生徒の知性を開放し自由に学ぶことを促せば、教師は教師の知らないことでも教えることができる」という導入部の話まで

なんとなくのこにわ 通常総会のお知らせ

日時：2025年5月10日(土) 午後1時30分 開会
会場：子どもの居場所 〒321-1261 日光市今市316-4
電話 090-3227-7079

議事：2024年度 事業報告および決算報告、
2025年度 事業計画および予算案、理事選任

映画「ぼくたちの哲学教室」

上映会 & 哲学対話に参加して 2025年3月29日

なにわ会員Iさんの勧めで、「ぼくたちの哲学教室」というドキュメンタリー映画を観てきました。

「人生は正解のない問いの連続。考えて、考えて、歩む。」北アイルランドの男子小学校では、「哲学」が主要科目になっています。宗教的対立が根深い街で、校長先生は、「どんな意見にも価値がある」と語ります。子どもたちは異なる立場の意見を聞きながら、自らの考えを整理し、言葉にしていきます。暴力の連鎖を断ち切るために、先生たちが対話を通じて問題解決をしようとする姿が感動的でした。親たちが「やられたらやり返せ」と教えている家庭もある中で、先生たちは親たちとも恐れず対話していきこうとします。

日本の場合はどうか。子どもたちの意見をしっかりと聞いているだろうか？ 大人同士もしっかり対話ができているだろうか？ 家庭の中でも、夫婦がお互いの主張を大事にしているだろうか？ 子どもの意見をわがままだと決めつけていないだろうか？ 「どんな意見にも価値がある」という校長先生の言葉に、人権を大事にしている姿勢が表れていると感じました。(白井)

はわかったような気がします。「学ぶ権利」の哲学的根拠、そして「教育」という仕組みに感じる「ぼんやりとした何か」、不自然さはどこからやってくるのかを探しながら、この本、じっくり読んでみようと思っているところです。

もうひとつ気になっていること。昨年はじめ、県教委は「第三期県立高等学校再編計画」(高校再編)を発表しました。計画によれば日光市にある今市高、今市工業高、日光明峰高が定員240人の総合学科高に統合されます。3高校の統合問題も重要ですが、「子どもの居場所」とっては宇都宮市にある通信制・定時制(定通制)の『フレックス・ハイスクールへの再編』が心配になりました。とくに通信制は自分なりの仕事や生活を続けながら高卒資格を取れるという魅力的な制度です。JR鶴田駅近くの宇高通信制は日光や鹿沼から比較的通いやすい位置にあり、月に3~4回の教室での授業(通信制では「スクーリング」と言います)の通学に有利でした。日光での友人やその家族に通信制出身者は少なくありません。その通信制高校は、2年後に「フレックス・ハイスクール」として宇都宮清陵高の敷地(作新学院大学の近く)に移動し、スクーリング通学の負担が増えます。もし、日光市の新しい高校にフレックス・ハイスクール分校、または協力校の機能を加え、通学の負担を減らすことはできないか。同時に、日光地域の「知のセンター」としてオープンな学びの場を作れないか。日光市に要望書を提出しようかと考え、周囲に相談している間に、NPO通常総会の準備に追われる時期になってしまいました。

2025年度が始まりました。ふたつの「気になること」は「学びの場」というキーワードでつながり、これからどう動いていくのか、この通信で報告していきたいと思っています。(手塚)

☆ 活動日誌

- 1月18日(土) 通信「なんとなくのひろば」第78号 発行
 1月18日(土) 不登校キャラバン 不登校を知る・考える 主催：一般社団法人ミニヨンズラボ日光 共催：なんにわ
 1月26日(日) ベリー会(グループ相談会)
 2月10日(月) 茶話会(第141回)
 2月23日(日) ベリー会(第5回 学習講演会)
 3月 4日(火) 第124回 理事会
 3月10日(月) 茶話会(第142回)
 3月23日(日) ベリー会(グループ相談会)
 3月26日(水) 次年度・子どもの居場所運営業務委託・入札手続(市役所)
 3月27日(木) 卒業・進級を祝う会 2024
 3月29日(土) 映画「ぼくたちの哲学教室」上映会&哲学対話に参加
 3月31日(月) 2024年度・子どもの居場所・終了
 4月 1日(火) 2025年度・子どもの居場所・開始
 4月14日(月) 茶話会(第143回)
 4月24日(木) 通信「なんとなくのひろば」第79号 発行

さくらそう関連 連絡会など

2024年度 日光市相談支援専門員連絡会

- 1月22日(水) 鹿沼就労継続支援A型事業所見学
 2月26日(水) 利用者訪問のため欠席
 3月26日(水) 高次脳機能障害研修伝達

2024年度 日光市障がい者自立支援協議会

- 1月12日(木) 第10回 ケース・事例検討会議
 2月13日(木) 第11回 ケース・事例検討会議(利用者訪問のため欠席)
 3月13日(木) 第12回 ケース・事例検討会議

研修会

- 1月29日(水) 高次脳機能障害支援養成研修 実践研修

春の自然観察
田んぼのいきものたんけん
5月31日(土) 9:30~
鹿沼市板荷
(潮田自動車修理工場・駐車場)
 共催:今市の水を守る市民の会
 場所は未調査のため、予定です
 案内は5月中旬にホームページに掲載

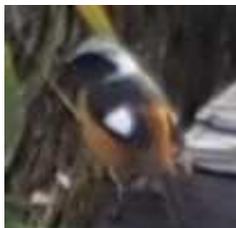


カット:会員さん作成・消しゴムスタンプ

ー 居場所でバードウォッチング ー

2月はじめの月曜日、子どもの居場所で中学生から「鳥を見に行きませんか」と誘われました。小学生も一緒にと思ったけれど、今日はまだ来ていません。スズメとカラスの区別くらいしかできない私は「こんな寒いのに鳥がいるの?」と尻込みしたけれど、「いますいます。ちょっと出かけましょう」。ということで、たまたまカメラも持っていたし、近くの瀧尾神社までふたりで出かけることにしました。

境内に近付くと、「あ、ビンズイがいます」。スズメより少し大きめで胸に縞模様の鳥が鳥居の近くで餌を探していました。光の加減で緑色や茶色に見え、美しい。そのうちヒヨドリが数匹飛んできて、カメラを構える間もなく、ビンズイは逃げてしまいました。カラスが高い杉の枝から眺めています。神社の駐車場側に移動すると、こんどは「ジョウビタキです」と指さす。そっちをみてもどこにいるのか見つけられません。「あの太い木が横だおしになっているところ、オスです」と言われ、適当にカメラを向けてシャッターを押したのが左の写真。(ピントが合っていない画像ですみません)おなかの赤茶色と羽の白い三角マークが特徴。暖かくなると北の繁殖地



子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市今市316-4)

日時：毎月 第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel: 090-3227-7079)

に帰っていくそうです。寒さが厳しいこの時期だから観察できる鳥たちがいることをあらためて知りました。

手も足もすっかり冷えてしまったけれど、もう少し頑張っって杉並木公園を回ってから戻ることになりました。スズメがたくさんいるなどと思ったら、「カシラダカです」(下写真)。群れで移動し用心深いので近寄れず、私の視力と眼力ではスズメとまったく区別できない。こういうときは双眼鏡があるとよいですね。午後の短いひとときでしたが、鳥好きの中学生から、いろんなことを教えてもらったミニ観察会でした。(手塚)



なんとなくのひろば

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net
ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

こんな本はいかが？ その69 やなせたかしさんの本

今回は、やなせたかしさんの本2冊を紹介します。

4月からの朝ドラ「あんぱん」で、やなせたかしとその妻のぶの半生が描かれ、放送されています。多くの子どもたちが大好きな「アンパンマン」ですが、その作者やなせたかしは、「本当の正義とは何か？」を考え続け、子どもにもわかる言葉で伝え続けているのです。そして子どもたちにもしっかり伝わっているからこそ絶大な人気があるのだと思います。

◎「やなせたかし 明日をひらく言葉」PHP研究所編 2012年 PHP文庫
はじめに「アンパンマンのマーチ」が書いてあります。

♪そうだ うれしいんだ 生きる喜び たとえ むねの傷が痛んでも
なんのために生まれて 何をして生きるのか ～～～♪
やなせさんは「人生の最大の喜びは何か？」と考え続け、「それはつまるところ、人を喜ばせることだ」と思い、「人生は喜ばせごっこ」だと気づいたとき、とても気が楽になった、と書いています。

この本の内容は、第1章 愛情と育ち方、第2章 仕事と運不運、
第3章 希望と喜び、第4章 正義と善悪、第5章 子どもと個性、
第6章 いのちと生き方 です。

子育て最中の保護者の方にお勧めです。

◎「わたしが正義について語るなら」～未来のおとなへ語る

やなせたかし 著 2009年 ポプラ社

この本は90歳になったやなせさんが、小・中学生に向けて書いた本です。でも大人自身ももっと深く「正義について」考えなければならぬと思っていますので、大人にも広く読んでほしい1冊です。

この本の内容は、
第1章 正義の味方って本当にかっこいい？
第2章 どうして正義をこう考えるようになったのか
第3章 正義の戦い方、第4章 ぼくが考える未来のこと です。
この本の最後のページにも「アンパンマンのマーチ」が書かれています。
やなせさんは、「正義という言葉に込めたい思いは、この詩の中にある」と書いています。

やなせさんは詩人としても有名で、詩集も出しています。 (白井)

会員について

- 正会員：48
- 賛助会員：13
- 団体会員：3
- 入会金なし
- 年会費(一口)
正会員 3,000円
- 賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営に直接かかわることができます。積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

2月末に日本で公開された映画『名もなき者』。2016年ノーベル文学賞を受けた(でも授賞式は欠席した)ポップデュランのデビューから5年間を描いた作品である。60年前のアメリカ音楽界の映画を見る人がどれだけいるんだろうかという興味もあり、チケットを買った■土曜午後の座席は半分近く埋まっていた。1961年のニューヨーク。デュランがギターを下げ、入院中のウディガスリーに会いに行くシーンから始まる。病室にピートシーガもいる。デュランが「俺の歌を聞いてくれ」とギターを取り出し歌い始める。あ、デュランってこうやってコードを押さえていたのかと…主演シャラメの演奏と歌はすばらしい。ギタープレイを猛特訓したそう。ここまで演技を追求できる役者って大したもんだと思った■デュランが師と仰ぐガスリーは社会活動家・組合運動家である。伝承音楽を踏まえた自作のフォーク、プロテストソングで1930年代に人気を得た。その後の公民権運動や反戦運動の高まりをピートシーガが引継ぎ、見出したデュランを育てようとした。しかし、デュランは伝統の枠組みに飽き足らず反発。やりたい音楽をやろうとする。野外フォークフェスティバルのシーンは圧巻だった。毎年開かれていたフォークフェス。生楽器が主体のステージにデュランはエレキギターを持ち込み大混乱となる。スクリーンのシャラメはデュランそのもの。演奏もしっかり聞かせ、歴史的なそのライブに参加したような気分させてくれた■ウディガスリーはギターの表板に「この機械はファシストを殺す」と書いた。ピートシーガはバンジョーに「この機械は憎しみを包囲し降伏させる」と記した。個人が生み出した音楽が社会や政治を変えることがあるのか。ガスリーとシーガは新しい社会が来ることを願っていた。ではデュランは。家に帰りデュランのCDを聞いた。やはりデュランの曲はデュランが歌うのがよい。彼は「風の中に消えていく」自分の歌声に、自分のメッセージを込めたのだ。(T)